

ねらい

目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

授業アイデア例

※ 言語活動を通して指導事項を指導していくことが重要である。言語活動が充実するよう以下に指導案例を示す。(大問2)

- 1 単元名 作品の魅力を交流会で伝え合う  
 ～文章全体と部分の関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる～

単元名は言語活動例で示す。副題として指導事項を挙げ、身に付けたい力を明確にする。

- 2 単元の目標  
 文章全体と部分の関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立て、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる。

- 3 単元の評価規準(略)  
 付けたい力を身に付けさせるために、ふさわしい言語活動を選定する。言語活動の特徴を的確にとらえることが重要。教師自身がまず作成したり、経験したりすることが大切!

- 4 言語活動の特徴  
 単元を貫く言語活動として「作品の魅力を交流する」という言語活動を設定する。筆者の作品が多くの人に読まれてきたのはどのような魅力があるからなのか、「作品の魅力を交流会で伝え合う」という見通しをもたせ、その他の筆者の作品の並行読書に取り組みたい。そこで、内容や構成、展開、表現の仕方などの視点から、生徒一人一人に「卒業ホームラン」の作品の良さをとらえさせる。  
 作品の魅力を自分の視点で表現するためには、生徒たちは必然的に、表現に着目して登場人物の心情や筆者の思いを読み取ったり、構成や表現の仕方に着目してその工夫や効果を考えたりしなければならない。(後略)

5 単元指導計画(7時間)

	学 習 内 容	主 な 評 価 規 準
第一 次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材文「卒業ホームラン」を読み、感想を交流する。</li> <li>「作品の魅力を交流会で伝え合う」という学習課題を設定し、筆者のその他の作品を選ぶ。</li> </ul>	<p>【読】単元のねらいをつかみ、教材文を読み、感想を交流している。</p> <p>【関】「家族」をテーマに本を選び、進んで読もうとしている。</p> 
第 二 次 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>情景や人物の描写が文章全体の雰囲気を作り上げる効果を考え、描写の効果について話し合う。</li> <li>登場人物の言葉や行動が、話の展開や作品全体に表れたものの見方などにどのようにかかわっているかを考え、登場人物の言動の意味について話し合う。</li> <li>表現の特徴をとらえ表現の仕方(描写の仕方や比喻の用い方等)や場面の展開を考え、書き手の目的や意図、その効果について話し合う。</li> </ul> 	<p>【読】描写の効果について感想を交流し、自分の考えをまとめている。</p> <p>【読】登場人物の言動の意味について感想を交流し自分の考えをまとめている。</p> <p>【読】表現の仕方や場面の展開について感想を交流し、書き手の目的や意図、その効果について自分の考えをまとめている。</p> <p>登場人物の心情、書き手の思いや価値観、表現の仕方などについて感想を交流する。交流を前提とすることで、感想の対象となった部分や表現の特徴などを指摘するなど、自分の感想を具体的に考えるようになる。</p>
第 三 次 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が選んだ作品の描写の効果や登場人物の言動の意味を考え、根拠を明確にしてその魅力を「カード」にまとめる。</li> <li>「カード」を基にグループで感想を交流し、読書の幅を広げようとする。</li> </ul>	<p>【書】「卒業ホームラン」で学んだことを生かし、自分の選んだ作品の魅力「カード」を作っている。</p> <p>【関】筆者の他の作品を比較して読むことを通して様々な相違点や共通点を発見する喜びを知り、読書の幅を広げようとしている。</p>

ねらい

メモの取り方を理解させ、学習や日常生活の場で活用できるようにする。

授業アイデア例

※ 出題の趣旨を踏まえ単元化して指導する例（大問1）

第一次（一時間）

第二次（一時間）

第三次（二時間）

単元を貫く  
言語活動

〈主な発問・学習内容〉

- 1 メモは何のために取るのか。  
◇ 内容を後で思い出すため。  
◇ アイデアや用件などを忘れないため。  
◇ 考えを整理するため。

- 2 人の話を聞くときはどのようにすればよいか。

- 3 覚えておきたいときはどうすればよいか。
- ◆ 判断！
    - ◇ 誰が誰に伝えるのか。
    - ◇ 何のための情報なのか。
    - ◇ どの言葉が大事か。
  - ◆ スピードと正確さ！
    - ◇ できるだけ短くまとめる。
      - ・ 主語や文末を省略する。
      - ・ 説明の部分を省略する。
    - ◇ 思い出せない漢字は平仮名で書く。
    - ◇ 何を書いてあるのか読める字で書く。
    - ◇ 何回も出てくる語句は記号（イニシャルなど）を活用する。
    - ◇ 数字、固有名詞などは正確に書く。
  - ◆ 視覚化！
    - ◇ 話の流れや事例の数、キーワードが視覚的に分かるように工夫する。
      - ・ 記号で書く。
- (例) だから…→ しかし… ↔  
つまり…= など
- ・ 大事な語句を強調する。
- (例) □ や ○ で囲む。
- ・ 番号を付ける。

- 4 次のようなときどうするか。  
【心に響く言葉に出会ったときや何かのアイデアが浮かんだときなど】
- ◆ 正確にメモ！
    - ・ 本からの引用は書いてあるとおりに。
    - ・ 著書名、著者名、出版社名、ページなども書く。
  - ◆ 見出しや日付を書く。
- 【授業中】
- ◆ ノートにメモ欄をつくり、先生の話や友達の意見などを簡潔にまとめて書く。

- 5 メモを取る練習をし、工夫した点などについてグループで感想を交流しよう。

【留意点】

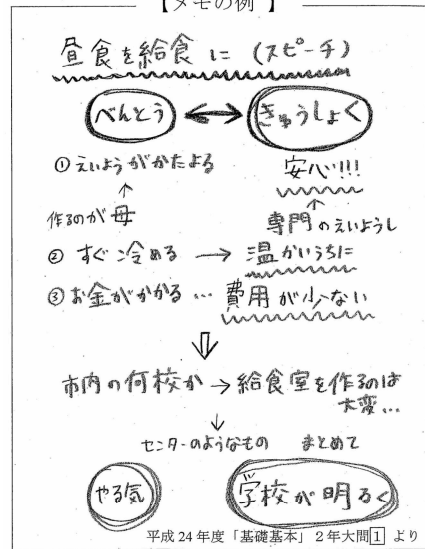
- 人に伝言を伝えるときや買い物頼まれたときなど、日常生活の中でメモを取る習慣がついていると役に立つことが多いことに気付かせる。



- 話を聞きながらメモを取るときに注意することを理解させる。

メモの意義や取り方を学び感想を交流しよう

【メモの例】



- 聞いたことをメモするだけでなく、覚えておきたいことを忘れる前にメモしておく、後から思い出しやすくなることに気付かせる。

【生徒へのアドバイス】  
メモは縦書きでも横書きでもOK。自分なりの書き方を工夫しましょう。



- 大問1のスピーチ等でメモの取り方を練習させる。

- メモの意義や取り方について確認し、メモの効果を実感させるとともに、日頃の生活に生かそうという意欲や態度を育てる。